

茨通研 認定試験直前学習会(二次試験対策)カリキュラム

2001.03.04(日)13:30~15:35 やすらぎ

1. 受付

受付で名前と市町村名を書いてもらう。

番号をつけて、6名ずつにグルーピング(1, 2, 3, 4, 5, 6) = 36名

グループに分かれて着席(2名×3列)

別れたら3つの机を合わせて着席

2. 自己紹介(5分/13:35~13:40)

講師自己紹介(木下・馬場)

グループ内で受講生同士、自己紹介。お互いの名前を覚える。

3. (導入) 自己診断テスト(15分/13:40~13:55)

設問1「あなたが茨城県登録手話通訳者認定試験を受けるのは、なぜですか？」

自分の手話技術のレベルを確認するため

手話通訳をやってみたいから(資格がないと手話通訳できないから)

地域に手話通訳者が不足しているから必要だから

その他(具体的に書いてください)

ポイント

登録手話通訳者になることって、どういうことだろうか?

資格を持って手話通訳をするって、どういうことだろうか?

設問2「今回の試験に向けてどんな勉強をしてきましたか？」

聞き取り手話表現通訳()

読み取り筆記通訳()

読み取り口頭通訳()

手話通訳者としての基礎知識、倫理など()

ポイント

登録手話通訳者に求められていることって、どういうことだろうか?

手話通訳って、どんな勉強・努力が必要でしょうか?

設問3「茨城県登録手話通訳者にとって一番大切なことは何だと思いますか？」

()

ポイント

お互いに意見交換をする中で、茨城県下のろう者に関わる私たちが、どんなことを大切にしていっていいのかわかるのか、考える。

その中でも、手話通訳に関わることを意味を、受験の前に考え、自分自身を振り返ってみる。また、周りの聞こえない人のことに思いをめぐらせてみる。

4 . 読み取り模試 (ビデオ 2 題) 書き取り (4 5 分 / 14 : 00 ~ 14 : 45)

ビデオ 2 分 + 書き取り 3 分 = 5 分 × 2 題 = 10 分

他己採点 (ペアを組んだ相手の答案をチェックし合って、二人で相談) 3 分

もう一度、ビデオを見て、自分の答案を修正する。 10 分

グループ採点 (一人ずつ回答を読み上げて、グループとしての答案を作る) 5 分

発表 5 分

もう一度、ビデオを見て、確認。 5 分

模範解答配布、解説 5 分

読み取り筆記通訳試験のポイント

字がきれいで、読みやすい答案か。

表現されていないことが、書かれてないか。(創作してはダメ)

訳しもれはないか。

日本語として、おかしい文章はないか。

メモのコツ

メモすることよりも読み取って内容を理解することに集中する。

無理に日本語にしようせず、手話として覚えたり、記号や絵を描いてイメージ化する。

話しの構造(組み立て) を分析(考え)、情報を整理しながら(分かち書きして) まとめる。

ただし、正確に反復が必要な情報(人名、地名、固有名詞、数字) は忘れる前に書いておく。

休憩 5 分 (14 : 45 ~ 14 : 50)

5 . 聞き取り表現手話通訳模試 (2 題) (6 分 × 3 名 × 2 題 = 36 分 / 14 : 50 ~ 15 : 30)

各グループから 1 名ずつ前に出て、計 6 名が同時に聞き取り表現。 2 分

同じグループの人が、チェック。一言ずつアドバイス (30 秒 × 5 人 = 3 分)

講師からポイント解説 1 分

2 人目の人が、表現、同様にグループ・チェック & 講師ポイント解説。

3 人目。

4 ~ 6 人目は、2 題目の問題をやる。

6 . 実技試験に臨む姿勢についてポイント解説 (15 : 30 ~ 15 : 35)

試験官の目で自分の姿勢をチェック (1 態度・2 表情・3 視線・4 声・5 礼儀)

あがらない工夫をする。自分の信頼するろう者をイメージする。

登録試験は、あくまでも通過点に過ぎない。また、手話通訳ということも、ろう者の社会参加・自立を側面から支援する手だての一つに過ぎないことを肝に銘じる。

以 上

(担当 ; 木下耕一)